

対象年度		令和 4年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		市道舗装補修事業						予算事業名		市道舗装補修事業費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	道路法、道路構造令				
			08	02	02	1101	経常経費						
総合計画体系	住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう						事業の区分	主要事業					
	快適で住みやすいまちづくり												
	道路維持管理の充実						担当課係等	土木課 維持係					
事業期間		継続 (昭和30年度～令和 6年度)											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
安全・安心な道路とする。							住民からの要望が多く、道路の安全確保については、ますます緊急的な対応が求められている。						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
経年劣化等による道路のひび割れ、水たまり、段差等の補修を行う。							道路の利用者。						
							【事業をとりまく環境の変化】 舗装の経年劣化に伴うひび割れや段差に加え、近年の集中豪雨による路肩や道路法面の崩れが多数生じている。 市民からの舗装補修要望は多く、道路の状態や利用環境により、緊急に対応する場合と年次計画に組み込み順番に対応していく場合とがある。						
【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】					
・路面性状基礎調査委託 ・舗装補修工事（箇所付け工事） ・舗装補修工事（緊急対応工事）				・路面性状調査委託 ・舗装補修工事（箇所付け工事） ・舗装補修工事（緊急対応工事）				・路面性状基礎調査委託 ・舗装補修工事（箇所付け工事） ・舗装補修工事（緊急対応工事）					
■事業費													
				R02年度		R03年度							
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0						
	県		支	出	金	0	0						
	地		方		債	0	0						
	そ		の		他	0	0						
	一		般	財	源	126,358	110,000						
歳 入 計 (千 円)				126,358		110,000							
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)			金額 (千円)		金額 (千円)							
	14 工事請負費			122,369		104,000							
	15 原材料費			3,989		6,000							
歳 出 計 (千 円) (A)				126,358		110,000							
伸 び 率 (%)						-12.94							
備 考													

令和 2年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R02年度	R03年度	R04年度
活動 指標	生活道路の舗装打替延長	km/年	目標	1.60	1.60	1.60
			実績	2.20	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	整備率	%	目標	100.00	100.00	100.00
			実績	137.50	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	誰もが安全安心で通行できる道路は市民生活における重要基盤である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	緊急性、必要性を考慮し、道路管理者が実施することが責務である。
	手段の妥当性	A 妥当である	緊急性を鑑み、対応できる業者を選定して発注している。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	年々要望により補修箇所が増える中、緊急性・必要性に加え、コスト効率に繋がる費用対効果を加味し、優先順位をつけて予算内で処理を行っている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市内全域を対象に道路管理者が実施すべき内容であり、公平性は高い。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	生活道路の安全確保につながっている。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	年次計画で対応するものについては順調に進んでいるが、住民からの要望を見る限り、市道全体をカバーするには至っていない。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
市道認定を受けている道路に関しては、生活道路か農道かの区別なく土木課に集中する傾向にあり、補修要望も増加傾向を辿っている。削減もしくは現状維持の予算、人員で対応しているため、市道全体をカバーすることは難しい。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
緊急性の高いケースについては安全第一であるため、コスト効率のみを追求することは難しいことから、これまでの補修実績データを整理し、年次計画に先立つ市道整備計画や補修基準等の指針を数年毎に見直しするなど、出来る限り迅速な整備を行える体制づくりを進めたい。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 舗装補修要望箇所が増加傾向をたどる中、現状維持の予算及び人材で対応している状況で、市内全域をカバーするには至っていない。また緊急性の高いケースについても、コスト効率のみ追求することは難しいことから、これまでの補修実績データを整理し、年次計画に先立つ市道整備計画や補修基準等の指針を数年ごとに見直しするなど、出来る限り計画的な整備が行える体制づくりを進めたい。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	